

3 外郭線と縄張り（図28～31）

（1）館城跡外郭線の概要

館城跡外郭線の調査は昭和63～平成2年の3ヶ年の調査、平成17年～24年の8ヶ年の計11次にわたって行われてきた。これらの調査により北辺を除く3方の外郭線の位置が明らかになった。

北辺については、平成24年の調査により北西部で堀・柵列の一部を確認しているが、東側の延長は確認できない。また、北東部は沢状地形の東側において堀と柵列を確認しているが、沢状地形を挟んだ西側では確認できない。これらのことから北辺の外郭線遺構については削平により消失した可能性が高いと判断した。

（2）西側の外郭線と大手虎口（図29）

館城跡西側では大手虎口と判断した出入口構造を確認した。堀・柵列が約15mにわたって途切れ、さらに堀は郭外側に枡形のような構造を形成する。虎口の両袖は虎口より西（郭外側）へ張り出し、虎口を取り囲むように配置される。

虎口の郭外側にみられる枡形状の構造は、「馬出」の一形態と考えられるが、完全な枡形状の構造は検出できなかった。福山城三の丸の大手虎口（「福山城「線図」（仮称）浄書図」松前町教育委員会2003）や改修以前の福山館の大手虎口（「松前奉行所経営地割図」国立公文書館所蔵）にも角形の馬出

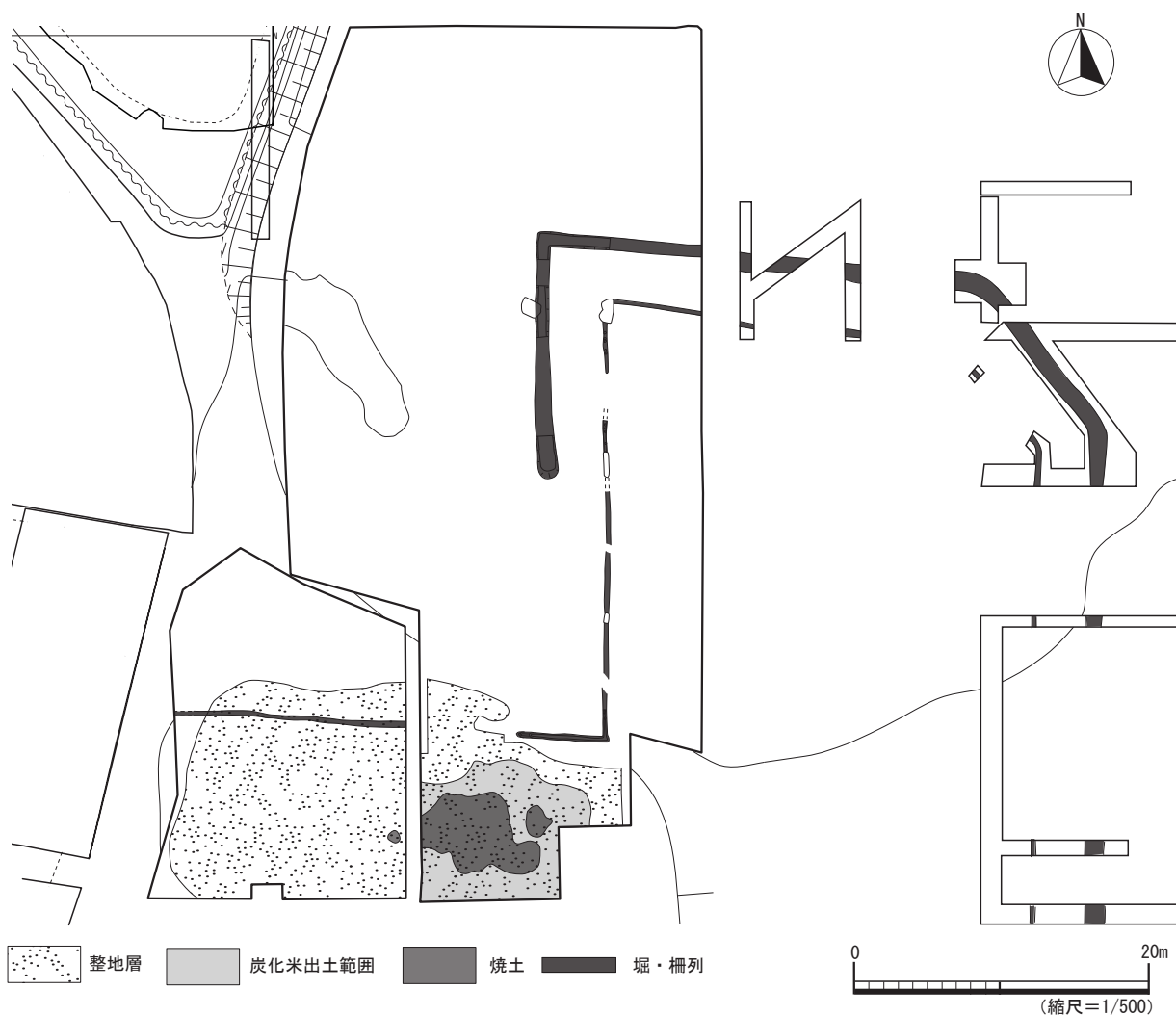


図30 北東部外郭線遺構配置図